

三重県新エネルギービジョン改定版（仮称）＜最終案＞について

1 三重県新エネルギービジョン改定版（仮称）の策定経緯

三重県新エネルギービジョンの改定については、専門的な知見を有する有識者や民間企業、地域活動を行っている関係団体等、幅広い観点から意見を求めるため、「三重県新エネルギービジョン推進会議」（別記1）を設置し、これまで検討を重ねてきました。

中間案については、県議会戦略企画雇用経済常任委員会に報告するとともに、11月12日までパブリックコメントを実施し、その意見をふまえ、最終案をとりまとめました。

2 新エネルギービジョン改定版（仮称）＜最終案＞の概要（資料7）

最終案の概要は、資料7のとおりであり、最終案の本文は別冊1のとおりです。

（1）はじめに 計画期間

ビジョンの改定版は、概ね15年先を見据えつつ、平成28（2016）年度を初年度とし、平成42（2030）年度を目標年度とするエネルギー政策の基本理念、長期目標、取組方針等を示す長期計画とします。

なお、「みえ県民力ビジョン・第二次行動計画」（仮称）＜最終案＞に合わせ、平成28年度から平成31年度までの4年間の中期的な数値目標と取組方向もあわせて示します。

（2）第2章 基本理念

「県民、地域団体、事業者、大学、行政などの多様な主体が、ライフスタイルや事業活動におけるエネルギーの使い方と意識を変革しながら、エネルギーの地産地消、エネルギー関連産業の振興、エネルギー関連技術を生かした地域づくり、省エネの推進を協創の考え方で進めていく力」を「みえの地域エネルギー力」と位置付け、「エネルギー・イノベーションと協創によるみえの地域エネルギー力向上」を基本理念としています。

（3）第2章 長期目標 第3章 中期目標（資料8）

目標とする新エネルギーは、現行ビジョンを継承し、太陽光発電などの6つの新エネルギーとコージェネレーション、次世代自動車など4つの高度利用技術をあわせて10種類の「新エネルギー」を対象とします。

長期目標（平成42年度）及び中期目標（平成31年度）は、「新エネルギー」の種類ごとに、これまでの県内の導入実績と今後の導入見込みをふまえつつ、国の導入見通しによる三重県への導入想定推計値を優先的な目標と捉え、これによりがたい場合は、県内

の導入実績の傾向を勘案して、導入目標を設定しました。

現行の新エネルギービジョンが目標とする平成 32 年度末の導入目標は、約 46 万世帯であるところ、長期目標（平成 42 年度）を、一般家庭で消費されるエネルギーの約 84.5 万世帯、中期目標（平成 31 年度）を、約 54.3 万世帯に相当する「新エネルギー」の導入を目標としました。

（4）第 3 章 取組方向

現行ビジョンは、構成上、新エネルギー・省エネ設備導入と環境・エネルギー関連産業の振興に力点が置かれていましたが、改定版（最終案）では、省エネルギーの県民・事業者への取組促進に力を入れるとともに、これまで以上に水素、メタンハイドレートなどの次世代のエネルギーを生かした地域活性化にも力を入れていきます。

○ 5 つの取組方向の目標（資料 9）

「みえ県民力ビジョン・第二次行動計画」（仮称）最終案の施策 3 2 4 「地域エネルギー力の向上」に対応して、5 つの取組方向の平成 31 年度までの目標値を設定しています。

取組方向 1 新エネルギーの導入促進

太陽光発電や風力発電などの大規模な発電施設については、事業者と市町の連携に向けた支援を行うとともに、家庭・事業所への普及啓発等により、自家消費型の太陽光発電等の導入促進に取り組みます。

また、廃棄物発電などの新たな新エネルギー導入の動きなど、市町との連携を強化します。

取組方向 2：家庭・事業所における省エネ・革新的なエネルギー高度利用技術の推進

HEMS、BEMS、スマートメーター等のエネルギーマネジメントシステムの導入促進による省エネの推進とともに、家庭・事業所への省エネ・節電の普及啓発、県民運動の推進などに取り組みます。

また、国の支援策によるコージェネレーション、燃料電池、次世代自動車、ヒートポンプなど革新的なエネルギー高度利用技術の導入促進に取り組みます。

取組方向 3：創エネ・蓄エネ・省エネ技術を活用したまちづくりの推進

桑名プロジェクト、熊野プロジェクトなどの先行事例の成果と課題をふまえ、防災、地域振興、観光振興などの地域課題解決に向けた地域主体のまちづくりが、県内各地へ水平展開するよう支援します。

また、国の補助制度を活用するなど、太陽光発電と蓄電池等の緊急時に活用できる自立分散型電源の設置による電源の多重化を図り、防災まちづくりを推進します。

取組方向4：環境・エネルギー関連産業の育成と集積

みえスマートライフ推進協議会のネットワークの活用や三重県産業支援センター・大学の研修等により、人材育成に取り組むとともに、研究開発の促進や工業研究所による技術支援、技術交流会等による販路拡大・設備投資及び立地の促進等につなげていきます。

取組方向5：次世代の地域エネルギー等の活用推進

研究会開催、技術開発支援、水素エネ導入促進などの水素エネルギーの利活用を推進するとともに、セルロースナノファイバーの実用化、バイオブタノール研究等バイオリファイナリー研究開発プロジェクトや志摩半島沖で産出が期待されるメタンハイドレートによる地域の活性化に取り組みます。

(5) 第4章 計画の推進 計画の推進体制の明確化

「三重県新エネルギービジョン推進会議」をビジョンの策定・進捗管理・見直しを中心組織に位置づけるとともに、新エネルギー導入、環境エネルギー産業振興につながる研究会等を実施する産学官で構成する「みえスマートライフ推進協議会」、庁内横断組織である「三重県エネルギー対策本部」などによるPDCAサイクルを明確化し、ビジョンの効果的な推進に取り組みます。

3 今後の策定スケジュール

12月9日 三重県議会戦略企画雇用経済常任委員会（最終案）

2月中旬 三重県議会へ議案提出* 三重県新エネルギービジョン改定版（案）

*「三重県行政に係る基本的な計画について議決すべきことを定める条例」第2条第2号に定める中長期的な計画